

くすりのしおり

注射剤

2023年01月改訂

薬には効果（ベネフィット）だけでなく副作用（リスク）があります。副作用をなるべく抑え、効果を最大限に引き出すことが大切です。そのために、この薬を使用される患者さんの理解と協力が必要です。

製品名：ベバシズマブ BS 点滴静注 100mg 「ファイザー」

主成分：ベバシズマブ（遺伝子組換え）〔ベバシズマブ後続1〕(Bevacizumab(genetical recombination) [bevacizumab biosimilar 1])

剤形：注射剤

シート記載など：



この薬の作用と効果について

がん細胞の増殖に必要な VEGF という糖たんぱく質の働きを阻害することにより、腫瘍の増殖を抑えます。通常、結腸・直腸がん、扁平上皮がんを除く非小細胞肺がんの治療に用いられます。

次のような方は注意が必要な場合があります。必ず担当の医師や薬剤師に伝えてください。

- ・以前に薬や食べ物で、かゆみ、発疹などのアレルギー症状が出たことがある。以前に血を吐いたことがある。消化管に炎症がある。大きな手術後で傷が治っていない。脳にがんの転移があると診断されている。血が止まりにくい体質である。血栓塞栓症（心筋梗塞、脳梗塞、深部静脈血栓症、肺塞栓症など）にかかったことがある。糖尿病、高血圧、心臓の病気にかかっている。
- ・妊娠または授乳中
- ・他に薬などを使っている（お互いに作用を強めたり、弱めたりする可能性もありますので、他に使用中の一般用医薬品や食品も含めて注意してください）。

用法・用量（この薬の使い方）

- ・あなたの用法・用量は（：医療担当者記入）
- ・通常、2週間または3週間以上の間隔をあけて、点滴で静脈内に注射します。初回は90分かけて点滴しますが、2回目以降は状態を見ながら、点滴時間を短くする場合があります。
- ・効果を見ながら、使用間隔、使用期間を決めていきます。

生活上の注意

- ・傷の治りが遅くなる場合がありますので、他院などにて手術や抜歯をする方は、この薬を使用していることを医師に伝えてください。
- ・高血圧や尿蛋白があらわれることがありますので、定期的に血圧の測定や尿検査が行われます。
- ・骨髄抑制があらわれることがありますので、定期的に血液検査が行われます。
- ・血栓性微小血管症があらわれることがありますので、定期的に検査が行われます。
- ・妊娠する可能性のある方は、この薬を使用している間は、適切な避妊を行ってください。また、この薬の使用終了後も最低6ヵ月間は、適切な避妊を行ってください。妊娠を希望される方は医師に相談してください。

この薬を使ったあと気をつけていただくこと（副作用）

主な副作用として、出血、高血圧、神経毒性、疲労・けん怠感、食欲減退、吐き気、口内炎、脱毛症などが報告されています。このような症状に気づいたら、担当の医師または薬剤師に相談してください。

まれに下記のような症状があらわれ、[]内に示した副作用の初期症状である可能性があります。

このような場合には、使用をやめて、すぐに医師の診療を受けてください。

- ・冷や汗、めまい、ふらつき、ほてり、からだがだるい、意識がうすれる、考えがまとまらない、判断力の低下、血の気が引く、動悸、息切れ、息苦しい、しゃがれ声、眼と口唇のまわりのはれ、じんま疹〔ショック、アナフィラキシー〕
- ・激しい腹痛、吐き気、おう吐、発熱、息苦しい、息切れ、咳、血を吐く、尿に泡が混じる、尿が濁る、肛門の周辺や皮膚に穴があき腸液や便がもれる、腔から便や尿がもれる、腔から出血する、皮膚や白目が黄色くなる、尿が褐色になる〔消化管穿孔、瘻孔（消化管瘻、気管支胸膜瘻、泌尿生殖器瘻、胆管瘻など）〕
- ・傷が治りにくい〔創傷治癒遅延〕
- ・血を吐く、吐き気、おう吐、腹痛、血が混ざった便、黒色便〔消化管出血〕
- ・血の混じった痰、血を吐く〔肺出血〕
- ・吐き気、おう吐、片側のまひ、意識の低下、考えがまとまらない、判断力の低下、頭痛、しゃべりにくい、手足のまひ・しびれ、意識を失って深く眠りこむ〔脳出血〕
- ・血を吐く、鼻・歯ぐき・腔など粘膜からの出血〔粘膜出血（鼻出血、歯肉出血、腔出血など）〕
- ・頭が重い、頭痛、立ちくらみ、冷や汗、片側のまひ、めまい、意識の低下、しゃべりにくい、視力の低下、しびれ、胸を強く押さえた感じ、胸の痛み、息苦しい、汗をかく〔脳血管発作、一過性脳虚血発作、心筋梗塞、狭心症、脳虚血、脳梗塞などの動脈血栓塞栓症〕
- ・足の激しい痛み、はれ、下肢のむくみ、汗をかき、発熱、意識の低下、咳、胸の痛み、息苦しい、皮膚や唇・手足の爪が青紫～暗紫色になる〔深部静脈血栓症、肺塞栓症などの静脈血栓塞栓症〕

- ・めまい、頭痛、吐き気、手足のしびれ [高血圧性脳症、高血圧性クリーゼ]
- ・けいれん、意識障害、視力障害 [可逆性後白質脳症症候群]
- ・全身の著明なむくみ、尿量が減る [ネフローゼ症候群]
- ・からだがだるい、発熱、出血が止まりにくい、出血しやすい、歯ぐきから出血する、鼻血、あおあざができる、息切れ [骨髄抑制 (汎血球減少症、好中球減少、白血球減少、貧血、血小板減少)]
- ・さむけ、発熱、咳、痰がでる、息切れ、関節の痛み、筋肉の痛み、皮膚が赤～赤紫色にはれる、痛みを伴う水ぶくれができる、症状が進むと皮膚は黒色になり、皮膚と筋肉がただれたり、くずれたりする [感染症 (肺炎、敗血症、壊死性筋膜炎など)]
- ・からだがだるい、全身のむくみ、息苦しい、動く時の息切れ [うっ血性心不全]
- ・発熱、から咳、息苦しい、息切れ [間質性肺炎]
- ・血が出やすくなる、鼻血、歯ぐきの出血、内出血、血尿 [血栓性微小血管症 (血栓性血小板減少性紫斑病、溶血性尿毒症症候群など)]
- ・突然の腹痛、突然の胸の痛み、突然の背中での痛み [動脈解離]

以上の副作用はすべてを記載したものではありません。上記以外でも気になる症状が出た場合は、医師または薬剤師に相談してください。

保管方法 その他

医療担当者記入欄

年 月 日

より詳細な情報を望まれる場合は、担当の医師または薬剤師におたずねください。また、「患者向医薬品ガイド」、医療関係者向けの「添付文書情報」が医薬品医療機器総合機構のホームページに掲載されています。